

STEP2 知る Hearing

頼る大人もいないまま一人で社会に出ていかなければならない児童養護施設を卒業した若者たち。当事者の生の声に耳を傾けましょう。



ブローハン聡:1992年生まれ、東京都出身。フィリピンとスペイン、日本にルーツを持つ。(一社)コンパスナビ事務局長として児童養護施設出身者の就労や生活を支援。小学生～高校生向けに『支える、支えられる、支え合う』(岩波書店 2022年10月発行)を出版するなど、児童養護施設出身当事者として講演や動画配信を行っている。

誰もがいつだってREスタートできる

(一社)コンパスナビ事務局長 ブローハン聡

私は、児童養護施設出身者です。被虐待児であり、無国籍、無戸籍だった自身の経験を通して、日本で現実起こっている課題を伝える活動をしています。

ライターでお尻をあぶられた子ども時代

日本で生まれた私は、普通とは違った形で幼少期を過ごしました。既婚者だった実の父親は、フィリピン人の母親から生まれた私を認知しませんでした。無国籍、無戸籍のまま、11歳で児童養護施設に保護されるまで、義父からあらゆる虐待で命を脅かされ、死を覚悟するような日々を過ごしていました。ライターで耳やお尻をあぶられ、やけどの痛みでうまく座れずにいた私の様子に違和感を持った担任の先生が虐待を発見。保護されてから約20年たった現在、私は31歳になりました。あの時、いつものように先生に見つからないよう、虐待のことを隠していたら、今日この瞬間、生きていなかった

かもしれません。さらに14歳の時、この世で唯一愛していた存在である母が旅立つと、虐待を痛みと感じないよう、何をされても自分を俯瞰することでようやく保っていた自分の心が壊れるのが分かりました。

まだやり直せる、まだ明日に希望が持てるはず

そんな時、ふとテレビに映し出された1枚の写真「ハゲワシと少女」を見て衝撃が走りました。地球の反対側で戦争で苦しんでいる子どもがいる。今の私は食べる物も寝る場所も、勉強できる環境もあり、明日を生きたいように生きられるのに、一方で明日に希望が持てない子どもがいる。私はまだやり直せる、まだ明日に希望が持てる。生きよう、と決心しました。そして人は、何度でも出会いやきっかけ一つで変わり得る可能性がある、と知りました。今までどれだけの人に関わって、私の命をつないでくれたのだろう。自分が置かれている全ての環

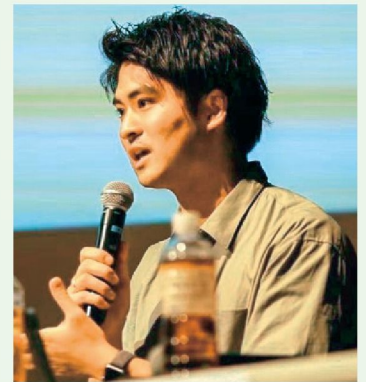
境に感謝しました。私はあの実父と義父にも「ありがとう」と言いたいし、天国にいる母に「生んでくれてありがとう、お母さんの子で良かったよ」って誇りをもって報告できるように生きようと思っています。こうしてロータリアンの皆さんに、社会的養護が必要な若者のメッセージを私が代弁して届けられることにも、とても感謝しています。

今は私が支援する側に

現在、私は主に二つの活動をしています。一つは社会的養護を離れた若者たち（ケアリーバー）の支援。もう一つは、社会的養護を必要とした当事者として、認知度向上や啓発のための発信を行うこと。具体的な支援活動としては、（一社）コンパスナビの事務局長として、埼玉県を中心にケアリーバーの若者へ、就労支援、住居支援、巣立ち（独り立ち）の支援を行っています。特に力を入れているのが住居の支援で、埼玉県主導で「児童養護施設退所者等アフターケア事業（クローバーハウス）」を、コンパスナビが受託、運営しています。ここでは、児童養護施設を退所し社会に出ても、同じような背景を持った若者たちが気軽に集い、若者の心のよりどころとなることを目指しています。

もう一つ、当事者としての発信活動は、You Tube による番組配信と講演活動です。私の周りには、家庭内での性的虐待を受け続けた子、虐待されていることを学校や警察に伝えても助けてもらえなかった子など、さまざまな人が集うのですが、家からかばん一つで、所持金もなく飛び出てきたところから私たちはつながります。緊急処置としてその日の寝る場所を探すことから始まり、

食事や生活を整え、働く場所を探すこともあります。同じような境遇の若者たちや、まだ施設にいる子、苦しみの渦中にいる若者や子どもたちに、希望を込めて情報発信をするのと同時に、大人たちにも社会的養護に関心を持ってもらうことで、



社会的養護が必要な若者への支援を呼びかけるブローハンさん

この問題について考えてもらえるよう、さらにはアクションにつながるよう願っています。

想像できますか？ 心身が傷ついた若者が一人で社会で歩いていくこと。子ども時代に「子ども」としての時間を奪われ、心身が傷ついた若者が、社会人として一人で生活することは容易なことではありません。明日を生きることを選ばない若者もいます。一方で、傷を抱えながらも、強く生きようとする子もいます。日々、さまざまなことで葛藤を抱え、一つ一つの出来事に揺れ動きながら少しずつ前に進んでいく姿を見守り続けます。

同じ日本に生きているのに、社会のしわ寄せが若者や子どもなど弱い者たちに向かっている課題を、どうにかしなければなりません。貧困をはじめ若者のさまざまな課題を、「自己責任」の一言で片付けるのは悲し過ぎます。ロータリークラブの皆さんには生きづらさを抱える若者たちに思いをはせ、関心を持っていただきたいです。願わくは近くにいる大人を通じ、一人でも多くの子どもの命が繋がれていくことを祈っています。

THE THREE FLAGS(スリーフラッグス) のろし 一希望の狼煙一



ブローハンさんを含め児童養護施設出身の3人の視点から社会を考え、新しい未来をつくるための“声”を発信する情報番組。チャンネル登録者数は約9,300人。

three-flags-kibou-noroshi.jimdosite.com



自身の体験を記した著書『虐待の子だった僕』（さくら舎 2021年10月発行）を手にするブローハンさん

（一社）コンパスナビ：埼玉県より「児童養護施設退所者等アフターケア事業」を受託し、児童養護施設や里親さんなどのもとを巣立った若者への就労支援、住居支援、また施設などに入所中の子どもたちの自立支援を行っている。

compass-navi.or.jp

